関東教区社会活動協議会プログラムの報告

『新潟水俣病は終わっていない』　　横山由美子

9月18日（日）於　新潟教会（対面&オンライン）

19日（月・休）於　新潟水俣病資料館

コロナ禍にあり、2年の延期を経て実現した企画で

す。祈り続けて準備してくださった新潟地区委員、参

加された皆さんに感謝し、報告いたします。

　研修1「新潟水俣病患者と共に歩んだキリスト者・

坂東克彦さん」と題し、川村邦彦さん（新潟教会員）

からお話いただきました。新潟水俣病訴訟の弁護団

幹事長や弁護団長も務めた弁護士である坂東さん。そ

の傍らで寄り添っていた川村さんから、受洗に至るま

での苦悩されていた事々も含めて伺うことができまし

た。4大公害病で初めて原因企業を訴え、昭和電工の

過失責任を認めさせた功績は大きいものでした。

　研修２「新潟水俣病は終わっていない―被害者の現

状と裁判への支援のお願い」新潟水俣病阿賀野患者会

事務局長である酢山省三さんから新潟水俣病の基本的

な説明と裁判の現状について話され、署名の訴えもさ

れました。患者さんである五十嵐美智子さん（70歳現

役看護師）からは、結婚するまでははっきりさせない

方がよいとの親の気持ちもあり認定する機会が遅くな

ったこと、料理を作っても味がよくわからずにいたな

ど、他者にはわかりにくい症状があると話されました。

　研修３新潟水俣病資料館①「新潟水俣病」当時のニ

ュースなどを映像で学びました。②語り部の水澤洋さ

んの講演を拝聴。水澤さんは毎日、阿賀野川の小魚を

釣って食べていたそうです。小学4年生の夏休み、手

足唇が腫れ、頭痛、耳の中で蝉が鳴いているようにウ

ルサイ症状が現れたが、どの病院でも診断がつかず、

「奇病」「タタリ病」と噂され、友達からも避けられ

るようになったと。また、症状のため遅刻を余儀なく

されたのですが、中学卒業の時、校長先生は卒業生に

はなむけの言葉を添えて卒業証書を渡すけれど、水澤

さんには「怠け病を直してまじめな人間になれ」と言

われたのだそうです。悲しくて振り返ることなく校舎

を後にしたと。お話の最後に「水俣病に恨みはない。

素晴らしい人たちとの出会いを与えてくれたから。」

そのような心境になられたきっかけを教えてとの質問

に、「孫が生まれた時です。」と話され、私は涙を抑え

ることができませんでした。③資料館の展示を観て、

それぞれ帰路につきました。

　あらゆる差別のない社会を創り出したいと祈ります。